



「豊かな体験の中で育まれるもの」

コロナ感染症の発生状況は少し落ちつき、安心していたところ、5月の半ばにインフルエンザが拡大し、園児の半数近くが罹患しました。子どもたちからご家族に感染が広がった方もおられ、大変ご心配をおかけしました。集団生活では、いろいろな感染症が広がることが予想されます。これまで同様、体調管理や検温、手洗い、手指消毒など感染予防をしていきましょう。

心地よい風が吹き、園庭やテラスでは、各年齢の子どもたちが芝滑りをしたり、こいのぼりの動きを追うなどさまざまですが、みんな元気に心やからだを動かしながら楽しそうに過ごしています。

先日、裏の畑で幼児クラスの子もたちが、じゃが芋掘りをしました。土が固く、手で掘るには少し苦勞する子もいましたが、掘ったじゃが芋を得意そうに見せる子や、土の中から出てくる虫を見つけると、もっと見つけようと夢中になっている子もいました。

じゃが芋掘りが終わり、掘ったじゃが芋を台車に乗せて園に帰ってくると、園庭で遊んでいた1、2歳児の子どもたちがそれを見つけ、じゃが芋の周りに集まってきました。子どもたちはじゃが芋をつかんだり、箱から出したり戻したり、持って歩いたり、じゃが芋に触れることが楽しいのか、なかなか離れてくれません。

そこで、「おおいね。これは小さいね。」「給食先生においしいの作ってもらおうね」など話しかけていると、子どもたちの表情はさらに生き生きとし、本当に楽しそうになりました。

1歳児の中にはじゃが芋には目もくれず、台車を動かそうとしている子もいましたが、いずれ

にしても、子どもたちは何気なくあそんでいるようでも、自分のやりたいことが見つかる、考えたり工夫しながらあそびを深め、楽しさを次の新しいことに挑戦する意欲につなげます。

子どもたちが自分のことを自分で決められる主体性は、あそびの中で身につけてゆきます。大人は子どもが自分の思いや意図とは違う方向に向かっていくと、つい、失敗しないようにと口出しをすることがあるかと思われませんが、子どもたちが自ら考えようとする主体性を伸ばしていくには、失敗した時になぜ失敗したかを一緒に考え、「次はこうの方がいいね」を子ども自身に考えさせた方が効果が上がると思われま

す。今月の7月7日、8日の2日間、年長児は広島市野外活動センターでのお泊り保育に行きます。小学校入学を前にして、「自分のことは自分でできるか」、「友だちと協力しながら考え、判断して行動する力」が身についているかなど、確認することが目標になります。家族と離れ、行ったことのない場所で、様々な体験を乗り越え、最後までがんばった経験は子どもたちに「やればできる」という自信を植え付け、一段とたくましく成長してくれるものと思われま

す。親離れを嫌がるお子さんがいたら、園には今までの一泊保育に行ったときのVTRがありますのでご相談ください。梅雨の季節に入ります。雨の日だからこそ楽しめる活動を子どもたちと話をしながら考え工夫していきます。また、夏野菜の生長には雨が降ることも大切なことだということを知り、自然の恵みに感謝する気持ちが持てるようになればと思います。

園長

玉ねぎとれた～



先生と友だちと一緒にチャレンジ



お鍋に玉ねぎの皮をポン！
結んだ布をポン！



こんなのできた～



玉ねぎをたきびの火で焼いて食べました。
「りんご？」と思うほど甘くておいしかったよ



どこにはこぼうかな

どれにしようかまよっちゃう



玉ねぎの皮で！？

子どもたちが、昨年の秋に植えた玉ねぎを5月に収穫し、その玉ねぎを給食の先生においしく料理してもらいました。

食べるだけでなく「あそんでみよう！」と年長児が玉ねぎの皮を使って布を染めてみました。布を所どころゴムで結び(これに苦戦している子もいました)、玉ねぎの皮を煮詰めたお鍋に布を入れ、ぐらぐらさせ、最後に焼きミョウバンを入れると・・・色がパッと変化する様子に目を輝かせる子どもたちでした。布を水洗いし、結んだゴムを外してみると一人ひとり違う模様が出来上がっていました。

このあそびが広がってつながって、また、あたらしいあそびがうまれるのが楽しみです。

梅雨 入り！しました

「梅雨」と書いて「つゆ」と読む初夏の長雨。中国の長江(揚子江)流域で梅の実が熟す頃の雨を「梅雨(メイウ)」と呼び、それが日本に伝わったと言われています。「つゆ」と読むようになったのは江戸時代のこと。その起源は「露」の連想であるとか、梅の実が熟してつぶれる「漬ゆ(ついで)」からきているなどの説があります。また、西日本と東日本では「梅雨」の性格が違います。西日本ではダイナミックな「ラテン系」とてもいうか、熱帯地方の「スコール」のような激しい雨が降り、「陽性梅雨」と呼ばれています。一方、東日本ではより「日本的」「情緒的」なしとしとと降ったり止んだりの雨で、「陰性梅雨」と呼ばれています。小さな島国の日本の雨にもこんな違いがあるのです。～和の行事ブックより～